



い。伝統的な茶器や箸以外にも、創意工夫から生み出される時代に合わせたモダンなデザインアイテムは、日用品としても活躍してくる。

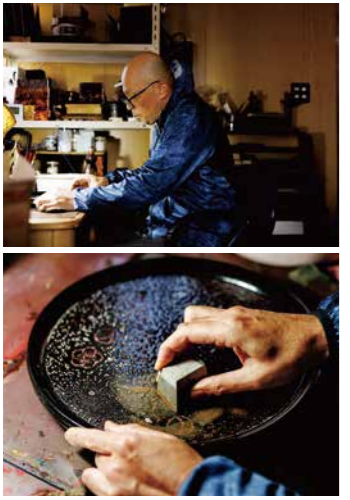
発祥は400年前で、模様
の美しさから宝石塗とも言
われる。アワビの貝殻や卵
の殻、松葉を使って模様を
入れ、その上に漆を数十回
塗り重ね、石で研ぎ出した
後、さらに木炭で肌を細か
くする“研ぎ出し技法”が
特徴。華麗な若狭塗は、質
素儉約が美徳の江戸時代、
一部の公家や武家のみで使
われていた。手間ひまかけ
て作られる若狭塗は、堅牢
で熱や水にも強く、日常で
の頻繁な使用や長期間の使
用にも耐えられる製品が多

詳細動画は
こちらから



丹念に塗り重ねた漆から
研ぎ出される、宝石のような輝き。

若狭塗のおはなし



若狭塗の黄金時代といわれた江戸中後期には、箔押し研出し技法(青貝・卵殻)、螺鈿以外にも蒔絵の技法も併用され、200種以上にも及ぶ塗手法が完成されていた。水や熱に強い若狭塗の中でも、箸は国内で生産されている塗箸の多くを占めている